

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：24201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17445

研究課題名（和文）救急医療施設におけるエンドオブライフケアに関する新卒看護師教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of new graduate nurses education program on end-of-life care in emergency medical center

研究代表者

生田 宴里 (Ikuta, Eri)

滋賀県立大学・人間看護学部・講師

研究者番号：90739161

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000 円

研究成果の概要（和文）：救急医療施設のエンドオブライフケアを実践する新卒看護師を対象に面接調査をおこない、彼らが直面する問題は、患者・家族のケアに関する問題、自己研鑽に関する問題であることが明らかになった。また、彼らのニーズは、看護基礎教育で学ぶ機会が少ない重症な患者や家族の看護について入職時から学んでおきたい、参考書ではなく実際に受け持った患者の事例をもちいて教えてほしい、実践的なロールプレイや看護技術の練習がしたい、先輩看護師たちの看護技術や考え方を見たい・知りたい、勤務後だけでなくゆっくりと振り返るための時間を確保してほしい、という知識・技術の獲得に関するニーズであることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究より、救急領域の新卒看護師はエンドオブライフにある患者・家族に対する看護実践に困難感を抱いていることが明らかになっている。本研究では、救急医療施設のエンドオブライフケアを実践する新卒看護師が直面する問題とニーズの実態が明らかになった。この結果を踏まえ、救急医療施設でエンドオブライフケアに携わる新卒看護師に対する支援をおこなうことにより、新卒看護師の看護実践能力の獲得と向上、患者・家族にとっての最善の医療を提供することにつながると考える。また、新卒看護師が抱えるリアリティショックの軽減や早期離職の防止にもつながり、組織の人材育成能

研究成果の概要（英文）：We interviewed new graduate nurses who practice end-of-life care in emergency medical facilities.

There were two main problems they faced: patient / family care and self-improvement. Their need was to acquire practical knowledge and skills. Specifically, from the time of employment, they want to learn nursing for critically ill patients and their families who have few opportunities to learn in basic nursing education, and they want them to teach using the cases of patients they were in charge of, not textbooks. They want you to practice traditional role play and nursing skills, to see and know the nursing skills and ways of thinking of senior nurses, and to secure time not only after work but also to slowly reflect on them.

研究分野：クリティカルケア

キーワード：エンドオブライフケア 新卒看護師 救急医療施設 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

救急医療施設においてエンドオブライフにある患者の多くは、死が間近で不可避な状態にある。患者は救命のために装着された人工呼吸器など医療機器に依存する反面、救命困難となった場合でもそれら処置の中断が困難な状況となり、それは結果として患者の尊厳を奪い、家族の悲嘆も大きくする。このような背景から、2014年には「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言～」が公表され、その中で医療チームの役割は「家族らが患者にとって最善となる意思決定ができ、患者がよりよい最期を迎えるように支援することが重要である。」とした。また、看護師に求められるクリティカルケア看護実践の能力の一つとして、井上は「急性状況から死に至る人へのケア」を挙げている(井上, 2007)。以上より、救急医療施設でエンドオブライフケアを担う看護師の役割が重要であることは明確である。

また、救急医療施設においてエンドオブライフケア実践能力を求められるのは、新卒看護師も例外ではない。しかし、先行研究では経験の浅いICU看護師が看護実践で感じる困難に「状態の悪い患者や家族の心情に沿った関わり」があることや、新卒看護師の早期離職に関連するとされるリアリティショックの構成要因として「患者の死に関する対応」が報告されている。これらより、新卒看護師はエンドオブライフにある患者・家族に対する看護実践に困難感を抱いている。

わが国では2007～2009年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」の一環として、2000年に米国で開発された「エンドオブライフケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的な教育プログラム」(ELNEC-Core)の日本語版が開発され、2006年には救急医療のエンドオブライフケアに特化したプログラムも開発された。しかし、これらのプログラムの受講対象者は、日本看護協会が推奨するクリニカルラダーII(看護実践の場面において単独で看護を提供できる、チームリーダー的役割や責務を認識し遂行できる、自己の学習課題に向けた学習活動を展開できる)相当の看護師であるため、受講対象者に新卒看護師は含まれていない。また、2014年に公表された新人看護職員研修のガイドライン改訂版(厚生労働省)では「看護技術についての到達目標」として「死亡時のケアに関する技術」が新たに追加された。しかし、その内容は「死後のケア」の一項目のみであり、それさえも「1年以内に達成を目指す項目」から除外されている。このような状況では、救急医療施設の新卒看護師がエンドオブライフケア実践能力を身につけるための支援体制としては決して十分とは言えない。

そこで、今回、救急医療施設の新卒看護師がエンドオブライフケアをおこなう上で直面する問題とニーズ、その支援について、個人ならびに組織の視点から分析し、新卒看護師を支援するための教育プログラムを開発することを目的とする。そして、新卒看護師のリアリティショックの軽減や早期離職の防止のみならず、組織の人材育成能力の向上にも貢献したい。

2. 研究の目的

救急医療施設におけるエンドオブライフケアに携わる新卒看護師を支援するための教育プログラムを開発することを目指し、まず、救急医療施設の新卒看護師がエンドオブライフケアをおこなう上で直面する問題とニーズについて明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

質的記述的研究

2) 研究対象者

救急医療施設のうち、二次救急医療施設(入院を要する救急医療施設)と三次救急医療施設(救命救急センター)に勤務する新卒看護師(臨床経験1～3年目)で、本研究の趣旨に賛同し、同意した者

3) データ収集方法

救急医療施設におけるエンドオブライフケアをおこなう上で直面する問題とニーズについて、インタビューガイドをもちいた半構造化面接を実施した。一人あたり40～60分程度の面接をおこない、研究対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成した。

4) インタビューガイド

- (1) 今まで経験したエンドオブライフケアの場면을振り返って下さい。
- (2) その中で困ったこと・悩んだことは何か、またその理由を教えてください。
- (3) その問題についてどのように対処し(または支援を受け)、解決しましたか。
- (4) どのような支援があれば良いと思いますか。

5) 分析方法

インタビュー内容について逐語録を作成し、K.Krippendorff(1980)の内容分析の手法を参考にし、カテゴリー化をおこなった。

逐語録を精読し、救急医療施設においてエンドオブライフケアをおこなう新卒看護師が直面する問題とニーズ、についての内容を文脈に合わせて一文一義でコード化した。そして、コードを意味内容の類似性に従って分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。分析過程においては、インタビューの生データと分析結果を繰り返し照らし合わせ、信頼性と妥当性を確保できるよう努めた。

6) 倫理的配慮

本研究は、研究者が所属する施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

研究対象者に対して、研究の意義、目的、方法、予測される結果や危険などについて、文書と口頭により十分な説明をおこなった。また、研究への参加は任意であり、参加に同意しないことをもって不利益な対応を受けないこと、参加に同意した場合であっても、不利益を受けることなくこれを撤回することができることを保障した。研究対象者は、この内容を理解したうえで、研究に参加することに同意する場合は、自らの自由意思に基づき、同意書へ署名することにより承諾を得た。

面接によるデータ収集の際は、個人情報を守るためにプライバシーの保てる個室を準備し、研究対象者の勤務時間内にインタビューが終了できるよう看護部と調整した。また、病院や病棟、看護師経験年数から個人が特定されないよう、研究の全過程において匿名化をおこない、個人情報の保護に努めた。

取得した個人情報は、研究者の責任の下に管理し、厳格なアクセス権限の管理と制御を行う。研究者相互間でのデータのやり取り、保管にあたっては、個人を特定できないようにして取り扱うなど、安全管理の徹底を図る。研究で得たデータは研究以外での目的では使用せず、研究終了後、個人情報を含むデータは一定期間保存の後、消去または裁断処理により適正に廃棄処分する。

4. 研究成果

1) 対象者の概要

対象者は4名(男性2名、女性2名)、平均年齢は22.5±0.58歳、看護師経験年数は1~2年であった。

2) 成果

- (1) 救急医療施設においてエンドオブライフケアをおこなう新卒看護師が直面する問題分析の結果、11の【カテゴリー】、の27の<サブカテゴリー>が生成された。

【未熟で無力な自分が重症患者(家族)のケアをおこなっていることへの葛藤が生じる】
このカテゴリーは、<未熟な自分は無力である>、<未習得の看護技術が求められる重症患者を受け持たなければならない>、<未熟な自分の言葉が患者・家族に大きな影響を与えたのではないかと後悔する>、<家族に聞かれたことにすぐに答えたいができない>というサブカテゴリー から生成された。

【家族にとっては自分も一人の看護師であるという重責を感じる】
このカテゴリーは、「家族にとっては看護師が何年目であろうが関係ない」というコードが含まれていた。

【循環動態が不安定な患者に触ることが怖い】
このカテゴリーは、「少し動かしただけで循環動態が変化するため患者に触るのが怖い」というコードが含まれていた。

【出会って間もない家族に思いを寄せることや関わるのが難しい】
このカテゴリーは、<家族に声をかける内容やタイミングを見極めるのが難しい>、<入院期間が短い患者への感情移入が難しい>、<よく知らない患者や家族が亡くなったという感情になる>というサブカテゴリー から生成された。

【短時間で変化する患者のアセスメントが難しい】

このカテゴリーは、<呼吸・循環の理解が難しい>、<CPA 蘇生後など重症患者の病態を理解することが難しい>、<患者の今後(予後も含む)を予測することが難しい>、<重症患者に装着される機器から得られる情報をアセスメントすることが難しい>、<ME 機器の理解が十分でないがアラーム対応しなければならない>というサブカテゴリ から生成された。

【看護基礎教育と現場での実践におけるギャップを感じる】

このカテゴリーは、<急変対応や重症患者のケアについて学校で学んだことと全く違うことをしているように感じる>というサブカテゴリ から生成された。

【医師や先輩看護師に相談しづらい】

このカテゴリーは、<医師や先輩看護師に相談したくてもできない時がある>、<医師や先輩看護師に相談しても思うような回答を得られない>というサブカテゴリ から生成された。

【重症患者より受け持つ機会が多い患者に関する勉強を優先してしまう】

このカテゴリーには、「身近に受け持つ患者(術後の患者)の勉強が優先される」、「重症患者よりも術後の患者が多いため、その勉強が優先される」というコードが含まれていた。

【一般的な知識と目の前の患者の状態を結びつけて考えることが難しい】

このカテゴリーは、<学んだことと目の前で起こることがつながらない>、<教科書や理論はあくまで一般的な内容である>、<患者は教科書通りにはいかないため理解が難しい>、<呼吸・循環の基礎的知識を重症患者の理解につなげることが難しい>というサブカテゴリ から生成された。

【重症患者の病態は複雑であるため断片的にしか理解できない】

このカテゴリーは、<病態は関連することが多すぎて断片的にしか調べることができない>、<何から勉強したらよいかわからない>というサブカテゴリ から生成された。

【外部の研修には行きづらい】

このカテゴリーは、「外部の研修に興味がないわけではないが、休日であったり遠方であったりするため参加しづらい」というコードが含まれていた。

(2) 救急医療施設においてエンドオブライフケアをおこなう新卒看護師のニーズ分析の結果、5つの【カテゴリー】と12の<サブカテゴリ >が生成された。

【勤務後だけでなくゆっくりと振り返るための時間を確保してほしい】

このカテゴリーは、<勉強したことを実践するが、それが正しいのか答え合わせをする機会がほしい>、<勤務後では振り返りの時間が長く確保できない>というサブカテゴリ から生成された。

【参考書ではなく実際に受け持った患者の事例をもちいて教えてほしい】

このカテゴリーは、<自分が関わった患者の事例で説明してもらえると理解しやすい>、<参考書に載っていることは理解できている>、<医師の指示の意味、検査の所見、患者の状態を医師に聞きたい>というサブカテゴリ から生成された。

【先輩看護師たちの看護技術や考え方を見たい・知りたい】

このカテゴリーは、<いろんな人の考えが知りたい>、<先輩がどのようにしているのか(技術・考え)を知りたい>というサブカテゴリ から生成された。

【看護基礎教育で学ぶ機会が少ない重症患者や家族の看護について入職時から学びたい】

このカテゴリーは、<CPA 蘇生後から回復・悪化する患者の病態や家族の心理を入職時から学びたい>、<学校では重症患者の家族への関わりを学ぶ機会が少なかった>、<救急領域での「エンドオブライフケア」を考える機会がほしい>というサブカテゴリ から生成された。

【実践的なロールプレイや看護技術の練習がしたい】

このカテゴリーは、<実践的なロールプレイや看護技術の練習がしたい>、<勉強し

た技術をもっと実践させてほしい>というサブカテゴリ から生成された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------